



墨東病院

〒130-8575

東京都墨田区江東橋四丁目23番15号

電話 03-3633-6151

病院の概要

墨東病院は東京都の区東部（墨田区、江戸川区、江東区および葛飾区の一部）の約百数十万人の医療圏をカバーする広域基幹病院です。周辺に同様の病院が少ないことから、地域の最終病院としてニーズに応えていく必要がある病院です。

病院の特徴としては、三次救急を含む総合救急体制である「東京ER・墨東」、周産期医療、精神科救急が有名ですが、それ以外にも地域がん診療連携拠点病院としての側面や、新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まってからは、病院を挙げて多くの中等症以上の患者への対応を行っています。

当院の特徴としてはなんといっても救急診療です。1次、2次の救急診療部(ER)、自己完結型の救命センター、集中治療室に加え、新生児・産科・循環器科・脳卒中・精神科などあらゆる診療科が救急医療に対応しています。

■ 診療科目

内分泌代謝内科 脳神経内科 血液内科 消化器内科 呼吸器内科 腎臓内科 総合診療科 循環器科
神経科 小児科 外科 心臓血管外科 呼吸器外科 整形外科 脳神経外科 形成外科 皮膚科 泌尿器科
眼科 産婦人科 新生児科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 リウマチ膠原病科 歯科口腔外科
感染症科 救急診療科 救命救急センター 集中治療科 麻酔科 診療放射線科 輸血科 内視鏡科 検査科

■ 基幹施設となる診療科（括弧内は連携施設病院）

- 内科 (広尾/大塚/駒込/多摩総合/神経/松沢/東部/大久保/荏原/豊島/
東京医科歯科大学病院/筑波大学附属病院/筑波記念病院/同愛記念病院/東京ベイ・浦安市川医療センター/
国立循環器病研究センター/静岡がんセンター/国立国際医療研究センター国府台病院/東京大学医学部附属病院/
千葉大学医学部附属病院/日本医科大学千葉北総病院/JAとりで総合医療センター/静岡てんかん・神経医療センター/
榊原記念病院/大森赤十字病院/東京北医療センター/東京大学医科学研究所附属病院/哲西町診療所(岡山)/島しょ等)
- 外科 (広尾/大塚/駒込/小児総合/東部/荏原/豊島/島しょ等)
- 産婦人科 (東京大学医学部附属病院/聖路加国際病院/順天堂大学医学部附属順天堂医院/焼津市立総合病院)
- 小児科 (神経/小児総合/聖路加国際病院/東京大学医学部附属病院/島しょ等)
- 精神科 (小児総合/松沢/東京医科歯科大学病院/東京足立病院/成増厚生病院/
国立精神・神経医療研究センター病院/精神保健福祉センター/埼玉県立精神医療センター/
大宮厚生病院/国立国際医療研究センター国府台病院/初石病院)
- 麻酔科 (広尾/大塚/駒込/多摩総合/神経/小児総合/東部/大久保/多摩北/荏原/豊島
順天堂大学医学部附属順天堂医院/かわぐち心臓呼吸器病院/越谷市立病院)
- 皮膚科 (広尾/大塚/駒込/多摩総合/防衛医科大学校病院)
- 救急科 (小児総合/東京大学医学部附属病院/東京ベイ・浦安市川医療センター/帝京大学ちば総合医療センター/
前橋赤十字病院/鳥根県立中央病院/島しょ等)
- 総合診療科 (聖母病院/篠崎駅前クリニック/クリニック川越/揚石医院/岩手県立千厩病院/
岩手県立高田病院/一関市国保藤沢病院/岩手県立大東病院/島しょ等)

■ 連携施設となる診療科（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 内科 (広尾/大塚/駒込/大久保/荏原/豊島)
- 精神科 (松沢)
- 整形外科 (多摩総合)
- 麻酔科 (広尾/大塚/駒込/多摩総合/東部/荏原/豊島)
- 泌尿器科 (駒込)
- 病理科 (駒込)
- 放射線科 (駒込/多摩総合)

臨床研修管理委員会委員長からのひとこと



脳神経内科医長
水谷 真之

当院初期研修を含めた様々な出身のアカデミー生の方が年々増えており、2022年度は67人在籍しています。各科で救急患者を含めた豊富な症例に対応することで、修練を積んで行くことができます。また、アカデミーの卒業生が常勤医となり、墨東病院の屋台骨となって、アカデミー生、初期研修医を教育する体制が確立されてきていることも当院の強みの一つと考えています。

一緒に墨東病院を支えるやる気のあるスタッフを募集しています。是非一緒に働いて、墨東病院をより発展させていきましょう。

シニアレジデントからのひとこと①



救急科
3年次
井上 謙

私は他院で初期研修を修了し、後期研修から墨東病院へ入職しました。初期研修中に救急集中治療医を志し、あらゆる重症患者に対して蘇生を施し、入院後の集中治療を自信を持って行えるようになりたいと考えていました。墨東病院の大きな特徴の一つは、1つの初療室にCTや透視が搭載されている hybrid ER システムが導入されており、スピード感のある蘇生を実現することができることです。見学の際に、3次救急患者の初療対応を見たときの衝撃は今でも忘れることができないほど印象に残っています。加えて日頃から診療に対して指導医による手厚いフィードバックがあり、定期的に集中治療科とも合同の勉強会を行うことで充実した教育を受けることができます。また、自らが蘇生を担当した患者さんに対して、初期対応や急性期の全身管理だけではなく、集中治療室退室後の一般病棟管理や退院・社会復帰に至るまで携わることができる点は医師としてのレベルを大きく引き上げてくれていることを日々感じています。集中治療科が運営するICUは教育体制が充実しており、希望に応じて他科研修を行うことで、初期研修の2年間での苦手を克服したりカテーテル手技などを身につけることもできますし、連携施設での研修では大学病院のICUや北米型ER、離島医療など幅広い経験を積むことができます。このように、当院での救急科後期研修は非常に充実した環境で学ぶことができ、ここで後期研修を行ってよかったと日々感じています。ぜひ一度見学にいらしてください。みなさんと一緒に働けることを楽しみにしております。

シニアレジデントからのひとこと②



内科(循環器内科)
3年次
長谷川 皓紀

私は墨東病院で初期研修を行い、そのまま循環器の後期研修医として墨東病院に入りました。墨東病院のメリットは「優秀な連携施設を生かした豊富な症例数と熱心な指導環境」です。内科専門医を取るために必要な160の症例登録と29の病歴要約をこなすためには効率よく症例を経験することが必要です。特にCOVID-19の影響で病床が制限される中で、症例数を経験することがより困難となっている昨今ですが、墨東病院は大学病院も含めた多くの病院を連携施設に含んでおり、全国的にもトップレベルのスケールメリットがあります。commonな病気の経験数だけでなく、稀少疾患も経験することもできます。そして、ただ症例を経験するだけでなく、優秀で熱心な指導医がたくさんおり、病歴要約の添削や日々の指導なども丁寧に行なっていただけます。しっかりとした要約を書くことは将来的な臨床能力や文献作成にも間違いなく役立つ土台となります。以上を踏まえシニアレジデントとして初期研修医とは異なる責任感や充実感を得る最適な環境だと思います。さらにこれらの連携施設が東京都内に近接していることも大きなメリットです。シニアレジデントはライフイベントが多く重なる、人生のキャリアにおいても大事な時期ですが、最低1年間連携施設に行く必要があることを考えると、これらの施設が集まっていることは非常に重要です。ぜひ墨東病院での後期研修でお会いしましょう。